

ICT 世界の潮流

8

健康・医療・介護での活用

国際社会経済研究所

主任研究員(NECCグループ)

遊間 和子

わが国における高齢化は、世界でも類をみないスピードで進んでいる。総人口に占める65歳以上の高齢者の比率である高齢化率は2013年には25%となり、4人に1人が高齢者という社会が到

来している。高齢化は地方から都市部へと広がり、山間過疎地に限定された問題ではなく、全国的にも重要である。高齢者の増加を比率ではなく、数で見れば、東京都では2040年までの30年間に144万人も増加すると推計されている。福岡市の総人口が約150万人ということ

民主党から政権交代した第二次安倍内閣では、停滞した経済を再生させることを最優先としたアベノミクスといわれる政策を打ち出してきている。「民間投資を喚起する成長戦略」の中では、健康・医療・介護分野でのICT化を徹底し、世界で最も便利で効率的で安心できるシステムを作り上げるとしている。

65歳以上の増加数が多い都道府県

	2010年	2040年	増加数
東京都	267.9万人	411.8万人	143.8万人
神奈川県	183.0万人	291.9万人	108.9万人
埼玉県	147.0万人	220.2万人	73.1万人
愛知県	150.6万人	221.9万人	71.3万人
大阪府	198.5万人	268.5万人	70.0万人
千葉県	133.9万人	195.6万人	61.7万人

国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(2013年3月推計)」

「健康長寿産業を創り、兆円に、医薬品・医療機器・再生医療の医療関連産業の市場規模を16兆円に拡大することも目標とされている。成長戦略と同時に新IT戦略でも医療情報連携ネットワークの普及・展開、医療情報データの構築、検診データ・生活支援・レセプトデータを活用した健康増進や健康管理、地域包括ケアシステム

官民でeヘルス構築

器・再生医療の医療関連産業の市場規模を16兆円に拡大することも目標とされている。成長戦略と同時に新IT戦略でも医療情報連携ネットワークの普及・展開、医療情報データの構築、検診データ・生活支援・レセプトデータを活用した健康増進や健康管理、地域包括ケアシステムにおける情報システム活用、センサーやロボットの技術の医療・介護への活用、高齢者・障害者向けのウェブ・アクセシビリティのさらなる維持向上などが言及されており、eヘルスへの取り組みは、今後の日本にとって非常に重要な視点となっている。しかし、世界で最も高齢化が進む日本におけるeヘルスへの取り組みは先進的な自治体、民間の医療・介護機関、大学などによる実証実験や部分的な展開にとどまっています。一方、世界で最も早く高齢化を社会的な課題と認識してきた欧州ではEUレベル、各国レベルで積極的にeヘルスに取り組み始めている。次回からは、遠隔医療・介護、バイオバンクなど欧州での先進事例を紹介していきます。